

水稲奨励品種「北陸179号」の特性

農業研究センター 高原農業研究所

担当者:田中 幸生

研究のねらい

熊本県の高冷地では、「ミネアサヒ」が約1,300ha作付けされているが、玄米の千粒重がやや軽くやや小粒であること、食味変動がやや大きいこと等から市場評価は低下傾向にある。そこで、これに替わる極良食味品種を選定する。

研究の成果

水稲「北陸179号」(母:どんとこい/父:収4695,北陸農業試験場育成)は、「ミネアサヒ」と比較して次のような特性を有する。

- 1 熟 期:出穂期は「ミネアサヒ」と同程度、成熟期は同等から3日程度遅い、“早生の早”である。
- 2 草 型:稈長は「ミネアサヒ」より約10cm短く、穂長も1cm程度短く、穂数はやや少ない中間型であり、止葉は直立し、草姿。熟色は“良”である。
- 3 生産力:収量性は「ミネアサヒ」よりも高く、玄米千粒重は重い。
- 4 品 質:玄米品質は「ミネアサヒ」と同等の良好であり、食味は味・粘り・外観が良く、「ミネアサヒ」より優れている
- 5 耐病性:いもち病抵抗性は“やや弱”である。

普及見込み面積:1,500ha

普及上の留意点

- 1 「ミネアサヒ」の全部及び「コシヒカリ」の一部に替えて、普及が見込まれる。
- 2 いもち病及び白葉枯病にはやや弱いので、多肥栽培を避け、適期防除を行う。

表1、生育、収量の比較

試験場所	品種名 または 系統名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏程度 0-5	玄米重 kg/a	千粒重 g	品質 1-9	検査等級
高原農業研究所	北陸179号	8/14	10/2	71	18.5	440	0.9	70.4	22.3	4.5	1等
	ミネアサヒ 対比・差	8/14 +0日	9/29	81 88%	19.6 94%	470 94%	2.1	61.6 114%	19.2 112%	4.8	1等
矢部試験地	北陸179号	8/2	9/20	71	18.4	404	0.0	71.2	22.8	4.5	1等
	ミネアサヒ 対比・差	8/3 -1日	9/20 +0日	78 91%	19.6 94%	422 96%	0.0	64.3 111%	20.1 113%	4.8	1等

注) 数値は、平成9年から11年度奨励品種決定調査成績(標肥区)の平均値
 移植日は、高原農業研究所5月22日(稚苗)、矢部試験地5月21日(中苗)
 標高は、高原農業研究所:約540m、矢部試験地:約640m

表2 耐病性(いもち病)

試験場所	品種名または系統名	葉いもち	穂いもち
高原農業研究所	北陸179号		××
	ミネアサヒ		××
	コシヒカリ	×	××
	あきげしき	××	××

注) :注、×:やや弱、××:弱を表す
 平成11年特性検定試験

表3 食味官能試験

試験場所	品種名または系統名	総合評価 -5~+5	外観 -5~+5	味 -5~+5	粘り -5~+5	基準米
高原	北陸179号	0.56	0.38	0.56	0.38	平成11年 コシヒカリ
	ミネアサヒ	-0.16	0.00	-0.09	-0.13	
矢部	北陸179号	0.00	0.28	0.17	0.22	平成10年 コシヒカリ
	ミネアサヒ	-0.11	0.22	-0.11	0.00	

注)
 *5%水準で「コシヒカリ」との間に有意差がある。



写真1 成熟期における立毛の比較
 左:北陸179号、右:ミネアサヒ



写真2 籾(上)玄米(下)の比較
 左:北陸179号、右:ミネアサヒ